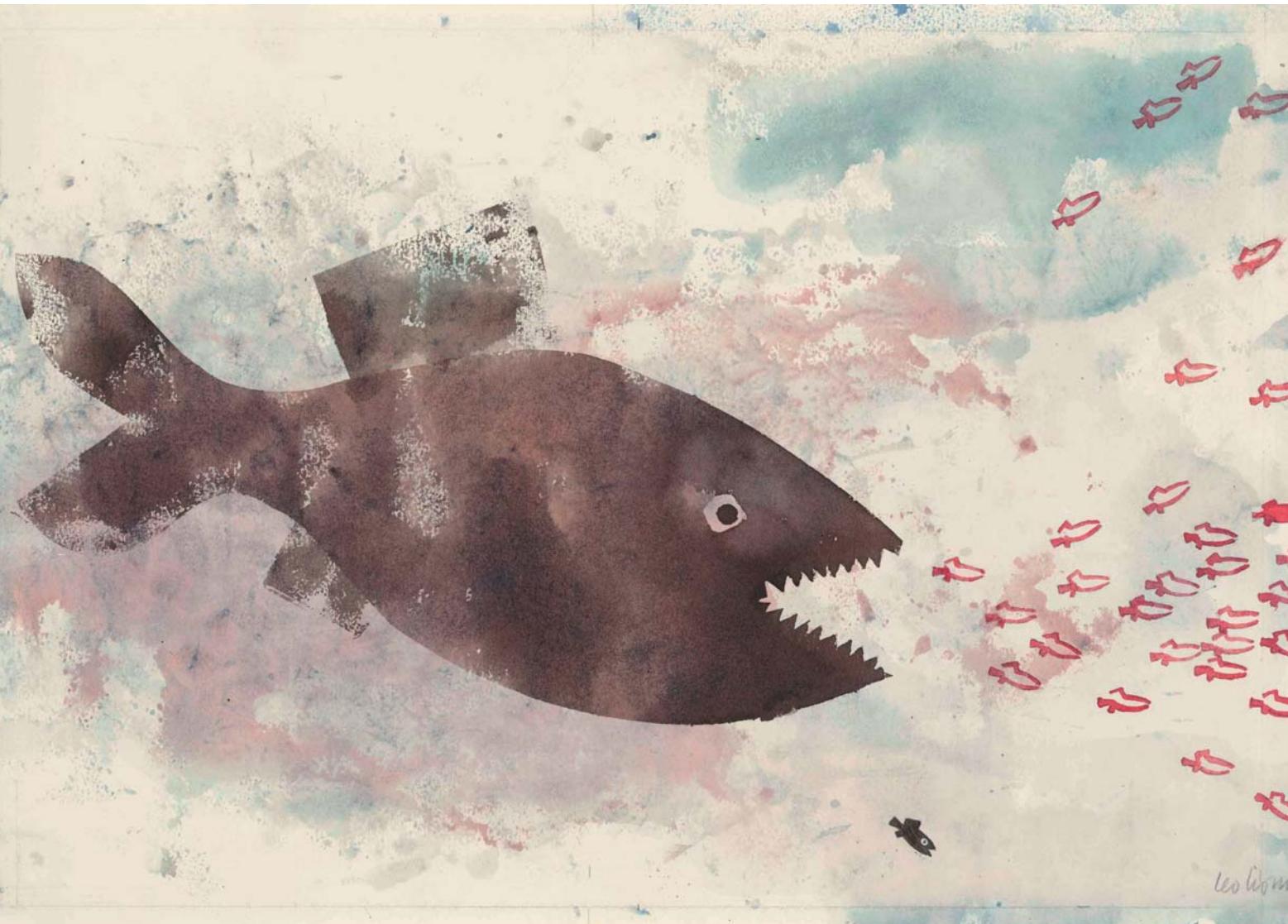


# おきみゅー通信

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.14 冬号



レオ・レオーニ「スイミー」1963年

Swimmy © 1963 by Leo Lionni, renewed 1991/Pantheon  
On Loan By The Slovak National Gallery

おきみゅーに“スイミー”がやつてくる!



沖縄県立博物館・美術館  
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

## 美術館企画展

# 作家と現在 ARTISTS TODAY

12/24(火) 2019 — 2/2(日) 2020 美術館企画ギャラリー1・2

一般 1,200(1,000)円、高校・大学生 800(700)円、小・中学生 300(250)円

※( )は20名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は当日料金の半額



石川竜一〈MITSUGU〉(2019)より[部分]

### 【展覧会の魅力や見どころを教えてください。】

県内外で広く活動し、さらなる飛躍が期待される沖縄ゆかりのアーティストを紹介する企画展です。今回紹介する4名の作家は、それぞれの現場で制作に取り組み、いまなお独自の探求を続けており、その探求の足跡をたどります。県内初公開となる作品も多く、今回の展覧会が作家の新たな一面に触れる機会となればと思っています。

また、作家それぞれにロングインタビューを行い、収録した内容は展覧会カタログに掲載しているのですが、これまでの制作や、いま現在に至るまでの考え方の変化を訊いています。作家本人の言葉から、作品の見え方を探るヒントが見えてくるのではないかでしょうか。

### 【4名の作家に焦点をあてた理由を教えてください。】

今回紹介する4名の作家は、今まさに活動の場をさらに広げようとしています。

新たな領域に身を乗り出そうとしている4名に焦点を当て、それぞれの作家の活動が、これから先どのような展開を見せるのかを、展覧会を通して間近に見ていただきたいと思いました。

石川竜一さんは、写真家として旺盛な活動を続けていますが、昨年より映像作品

の制作を手掛けています。本展で紹介する〈MITSUGU〉は、写真とテキスト、そして映像がひとつの空間で反応した作品です。

伊波リンダさんは、沖縄に住む人々の多様性をとらえた写真を数多く発表していますが、昨年、初老の男性を撮影した〈Nowhere〉を発表しました。ひとりの被写体に寄り添うかたちで撮影されたシリーズは、今までの方法とは異なるアプローチです。

根間智子さんは、今年、写真集『Simulacre』を出版しました。イメージの重ね合わせによって浮かび上がる新たな表現を探求しており、今回の展覧会では、その作品を空間に展開させます。

ミヤギフチさんは、今年単行本『ディスタンス』を刊行し、文芸誌で小説を発表するなど、様々なフィールドで活躍していますが、今回紹介する《How Many Nights》は、ひとつの映像のなかに、5人の女性の物語が幾重にも重なり、様々な視点が浮かんでくる作品です。

### 【観覧者へのメッセージ】

作家の方々は、展覧会準備の最中にも、新しい作品に向かって制作を続けています。そうした果敢な挑戦をしている時期に、こうして展覧会を行うことができたのは、とても

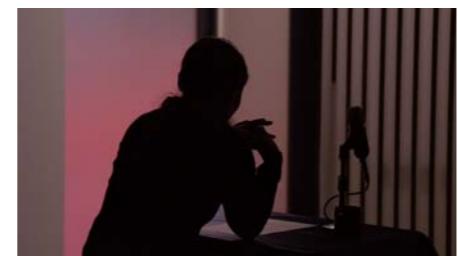
ありがたいことだと考えています。現在進行形で展開していくそれぞれの作家の作品をぜひご覧ください。(学芸員 亀海史明)



伊波リンダ〈矛盾の中で眠る〉(2014)より[部分]



根間智子写真集『Simulacre』(2019)より[部分]



ミヤギフチ〈How Many Nights〉(2017)より[部分]

予告  
美術館  
2/15(土) 6/28(日)  
2020 美術館コレクションギャラリー1・2

コレクションギャラリー1 10代後半を沖縄で過ごした石田尚志(いしだ たかし1972-)は、線を少しずつ描いてはコマ撮りをするという行為を繰り返して「動く絵(ムービング・ピクチャー)」を作り上げます。

本展では、昨年度新たに収藏した3つの映像作品、《渦巻く光》(2015)、《海の映画》(2007)、《部屋/形態》(1999)を紹介します。

一般 400(320)円、高校・大学生 210(170)円、県外小・中学生 100(80)円  
※( )は20名以上の団体料金 ※県内小・中学生、未就学児は無料  
※70歳以上の方は無料(身分証の提示が必要です)  
※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料(身分証の提示が必要です)

コレクションギャラリー2

大城精徳の仕事

沖縄県大里村(現南城市)生まれの大城精徳(おおしろ・せいとく1928-2007)は、画家であり、雑誌『琉球の文化』を出版するなど、沖縄美術工芸研究者でも知られています。

本展覧会では、平成30年度に寄贈を受けた19点の絵画を中心に、初出品の絵画22点と資料類を展示し、大城精徳が描いた沖縄を検証します。

## 博物館企画展

令和元年度 琉球王国文化遺産集積・再興事業 博物館特別展

# 手わざ 琉球王国の文化

2/4(火) — 3/15(日)  
2020

博物館企画展示室、特別展示室1・2

一般 800(650)円、高校・大学生 500(400)円、小・中学生 300(250)円

※( )は前売料金または20名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は当日料金の半額



四季羽毛花卉图巻(絵画)製作風景

### 【「琉球王国文化遺産集積・再興事業」とは、どのような事業でしょうか。】

近代化や戦争などで失われた琉球王国時代の美術工芸品および手わざを、最新の研究・調査や、現代の技術で模造復元する事業です。模造復元する作品は、8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)65件に及びます。平成28年度から製作を開始し、昨年度までに36件が完成しました。模造復元は、ある作品が製作された当時の姿を忠実に復元したもの、新たに製作することです。作品について研究を重ね、可能な限り製作当時と同じ材料や技法を用いる点でレプリカとは異なります。

### 【この事業を行っている中で、驚きの発見などありましたら教えてください。】

大きな発見のひとつは、各分野に共通して見られる「琉球の美意識」です。例えば織物の模様を少しずつずらして織ったり、抱瓶(やきもの)の造形にわずかな歪みをもたせたりするなど、非常に高い技術を持っていながら、「あえて」左右非対称に

作ることがあったとわかりました。できるのに「あえて」やっていたという発見は驚きです。

完璧にピッタリと作られた作品と比較すると、少しゆるさを加えた作品の方が、のびやかで美しく感じられることもわかりました。整った美しさが求められることが多い現代の職人さんは、最初は戸惑いながら、こちらからの依頼に応えて製作してくださっています。

だけだと思います。

また模造復元する8分野を通して見ることで、琉球王国の文化を幅広く知ることができます。8分野のひとつが「三線」ですが、琉球王国時代の三線の音色、聴いてみたいと思いませんか? 現代の三線とは違う音を、ぜひ展示会場で確かめてください。

### 【関連イベントについて教えてください。】

いちばんの目玉イベントは、「模造復元で紐解く琉球の美」と題して開催する記念シンポジウムです。4つの分野から監修委員を務めるスペシャリストを招き、専門家の立場から本事業の成果と意義をご紹介いただきます。事業を進める中で判明した琉球の美術や文化についても知ることができます。

普段、展示を見ていて「この作品はどのように作られたんだろう?」と疑問に思うことはないでしょうか? 作品の歴史を知ることはあっても、その作品を誰がどのように作ったか知ることは難しいと思います。この展覧会では、写真や映像などを使って製作工程をわかりやすく伝える工夫をしますので、作品の新たな見方をお楽しみいただけます。

子どもから大人まで楽しめる琉球古刺繡を体験できます。他にも琉球の金工や仏教美術についての文化講座など、「手わざの秘密」と「琉球の美」を深く知るためのイベントが盛りだくさんです。

(学芸員 篠原あかね)



玉陵石獅子(石彫)製作風景



陶芸の監修者会議で原資料と模造復元品を比較する様子



朱漆巴紋沈金御供飯(模造復元品)

# みんなのレオ・レオーニ展

## READING LEO LIONNI, AGAIN.

2/28(金) - 5/10(日)

美術館企画ギャラリー1・2

一般・大学生 1,200(1,000)円、高校 1,000(800)円、  
小・中学生 600(500)円

※( )は前売料金または20名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は当日料金の半額  
※未就学児無料 主催:(一財)沖縄美ら島財団、沖縄テレビ放送、朝日新聞社

『スイミー』『アレクサンダとぜんまいねずみ』『あおくんときいろちゃん』『じぶんだけのいろ』など、作者は知らなくても絵本は知っているという人は多いのではないでしょうか。レオ・レオーニ(1910-1999)の絵本はそれくらい日本で親しまれている存在です。しかし、私たちはどれくらい作者のレオーニのことを知っているでしょうか。本展ではお馴染みの絵本を中心に、絵画や彫刻、グラフィック、アニメーションなどの作品も展示し、芸術家としてのレオ・レオーニを紹介します。

レオ・レオーニは、1910年オランダに生まれました。ユダヤ人の家系で、父はダイヤモンド産業の従事者、母はオペラ歌手という裕福な家庭でした。芸術を深く理解する叔父たちの影響で、幼いころより芸術に親しんでいたといいます。両親の仕事の関係もあり、青少年期をベルギーやアメリカ、イタリア、スイスなどで過ごしました。イタリアでデザイナーとして働いた後、第2次世界大戦が近づくころにアメリカへ渡りました。

彼の絵本には、こうした若い頃の経験が反映されているようです。戦争の雰囲気が高まる中、ヨーロッパとアメリカを行き来していたレオーニにとって、“何人”であるかは重要なことではなかったかもしれません。むしろ“自分とは何者か”を考えたことでしょう。それは彼の絵本に出てくる主人公の姿とも重なるようです。例えば、小さな魚スイミーは、



レオ・レオーニ「コーネリアス」1983年  
Cornelius ©1983 by Leo Lionni/Pantheon Works by Leo Lionni, On Loan By The Lioni Family

さまざまな経験を経て、仲間の目となって大きな魚に立ち向かうことができました。ねずみのフレデリックは、仲間と厳しい冬の季節を過ごす中、彼が蓄えていた歌や詩によって仲間に力を与えます。絵本の主人公たちは、共同体のなかで特別な役割を見出し、新しい価値観をもたらす存在として描かれています。つまりそれは、芸術家としての自負を持つレオーニの姿なのです。

違う分野で活躍し、人々を惹きつける作品を生み出したその創造力に驚かされます。本展ではグラフィック作品も展示されますが、そこには愛らしい絵本の世界とは違ったモダンでスタイリッシュな仕事を見ることができます。デザイナーとして培われた色彩・造形感覚、画面構成力などが、彼の絵本を魅力的なものにしていることがわかるでしょう。

展覧会ではこのほか、初期の油彩画やアニメーション作品も展示し、レオーニの多面的な創作活動をご紹介します。展示室には手に取って読める絵本も設置しますが、レオーニの芸術活動を踏まえてこれらの絵本を見直したとき、お馴染みの物語が、新たな魅力をもって立ち現れてくることでしょう。

(学芸員 國吉 貴奈)



レオ・レオーニ「フレデリック」1967年  
Frederick © 1967, renewed 1995 by Leo Lionni/Pantheon Works by Leo Lionni, On Loan By The Lioni Family

## モノとモノを結び、豊かさをもたらす場 ミュージアムショップ ゆいむい

ミュージアムショップは、単なるお土産屋さんではなく、商品の品ぞろえにより、その施設の特徴や楽しみ方を表しているといえます。

ミュージアムショップゆいむいでは、当館で開催した展覧会の図録をはじめ、琉球・沖縄の美術工芸や歴史・考古・自然・民俗等に関する商品を中心に取り揃えています。お客さまが展覧会への理解を深めたり、琉球・沖縄へ興味を持つきっかけになるような商品展開を心がけています。お土産としてだけでなく、お祝いや身近な人への贈り物にも最適です。また、昨年秋から「ゆいむいアートサロン」を店内で開催しています。これは県内で活躍しているアーティストを応援する企画で、作品を鑑賞するだけでなく、気に入った作品を購入することもできます。このアートサロンを通して、アーティストとみなさんを“つなぐ”お手伝いができる嬉しく思います。

ちなみに、店名である「ゆいむい」の意味は、沖縄の助け合いや結びつきを表す「ゆいまーる」と、杜を表す「むい」を合わせて、いろいろなものを結びつけ、豊かさをもたらす場をイメージしています。ご来館の際にはお気軽に立ち寄りください。



長嶺 齊 ミニギャラリー展(10/29-11/24)の様子

沖縄では新暦のお正月と同じくらい大事にされている「旧正月」。

**旧正月は  
おきみゅーに  
行こう!  
2020**

1/24(金)・25(土)・26(日)

**令和初の「旧正月」を祝う!**

そんな旧正月をおきみゅーでお祝いし、理解を深めましょう!

# ふれあい体験室の魅力って?

ふれあい体験室は、ハンズオン資料を展示している無料ゾーンのお部屋です。その魅力は何といっても“本物の資料に触れる事”。各体験キットは博物館常設展示の内容とリンクしており、体験キットに直接触れることを通して、収蔵資料等に興味・関心を持ってもらう役割を担っています。そして、もう一つの魅力が“人と人がふれあえること”。体験キットとのふれあいだけでなく、資料を通しての親子同士のふれあい、来館者とスタッフとのふれあいができる場所なのです。たくさんのふれあいの中で、日々様々な出会いや素敵なエピソードが生まれています。今回はその一部をご紹介します。

## ③人と人とのふれあいエピソード1 ～キットを通していちゃりばちょーでー?～

石積みパズルのキットを体験していた日本人の親子。その様子を見て興味を持ったヨーロッパ系の親子が声をかけると、シェアして一緒に体験することに。少しずつ積みあがっていく石積みのパズル。全員で協力しあい、見事完成!ハイタッチをして一緒に喜び合い、全員で記念撮影しました!



## ④人と人とのふれあいエピソード2 ～交流をきっかけに三線にドはまり～

小学生の頃に来館した県外の女の子。初めて三線体験をしたとき、対応してくれたボランティアさんが丁寧に教えてくれたことに感激し、ふれあい体験室と三線が大好きに。沖縄に住むおじいちゃんに三線をおねだりして買ってもらい、練習を続け、高校生になった現在も夏休みになるとふれあい体験室に顔を出して、お世話になったボランティアさんに聞かせようと三線の腕前を披露してくれます。

ふれあい体験室にいると、「スタッフの○○さん今日はいないの?会いに来たのに~」「去年来館したときにボランティアの○○さんにお世話になったのでお礼がしたい」といった声をたくさん耳にします。コミュニケーションによって生まれた経験というものは、強く人の心に残るのだなと実感させられます。ふれあい体験室は「館内で一番開かれた場所であるように」をモットーに運営しています。誰でも気軽に立ち寄れて、時にはユンタク(おしゃべり)を楽しんで、笑顔で帰ってもらえるような場所であり続けたいです。まだ来たことのない方は、気軽に足を運んでみてください。(教育普及担当 比嘉麻乃)

担当学芸員が選ぶ!

# ふれあい体験室のイチオシ!キット

皆さんは「藁算(わらざん)」をご存知でしょうか? 体験キット No. 26 記録のくふう1



ふれあい体験室では、収穫した穀物の量や飼っている家畜の数を記録したものなど、色々な種類の藁算を紹介しています。藁算から、先人の知恵と工夫を感じてみましょう。(教育普及担当 比嘉麻乃)

毎月楽しいイベント  
が盛りだくさん  
だみゅ～

# 1・2・3月のイベント情報



# 博物館

## 「グスク・ぐすぐ・城」関連催事

### 1/11土 学芸員講座 「琉球列島城郭研究最前線 (特別展展示室案内)」

時間 10:00～11:30 / 14:00～15:30 場所 博物館 3Fグスク展示室前集合  
定員 各30名 講師 山本正昭 (展覧会担当学芸員)  
※当日有効の「グスク展」観覧券が必要

### 1/19日 シンポジウムII 「遺跡から見た琉球列島のグスク時代」 無料

時間 13:00～17:00 (開場12:30) 場所 講堂 定員 200名  
基調講演 當眞嗣一氏 (グスク研究所主宰 沖縄県立博物館 元館長)  
登壇者 村木二郎氏 (国立歴史民俗博物館 准教授)  
久貝彌嗣氏 (宮古島市教育委員会主事)  
小野正敏氏 (国立歴史民俗博物館 名誉教授) 司会: 山本正昭  
池田榮史氏 (琉球大学法文学部 教授) (展覧会担当学芸員)

### 2/15土 課外活動 遺跡見学ツアー第2弾 「最も見学困難!賀陽グスクへ登る!」

時間 13:00～17:30 集合場所 伊平屋港ターミナル出口付近 定員 20名  
講師 山本正昭 (展覧会担当学芸員) 参加費 100円 (保険代)  
※1月2日(木)から、電話か直接来館(総合案内)にて受付

## 「手わざー琉球王国の文化ー」関連催事 無料

### 1/18土 文化講座 「琉球の刺繍について」

時間 14:00～16:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名  
講師 寺田貴子氏 (活水女子大学 教授)

### 2/15土 文化講座 「琉球の金工について」

時間 14:00～16:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名  
講師 久保智康氏 (京都国立博物館 名誉館員・叡山学院 教授)

### 2/16日 特別展記念シンポジウム 「模造復元で紐解く琉球の美 —琉球王国文化遺産・集積再興事業の意義と成果—」

時間 13:30～17:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名  
講師 【絵画】荒井経氏 (東京藝術大学 教授)  
【漆芸】室瀬和美氏 (自白漆芸文化財研究所 顧問)  
【金工】久保智康氏 (京都国立博物館 名誉館員・叡山学院 教授)  
【染織】山田葉子氏 (那覇市歴史博物館 学芸員)  
【分析】早川泰弘氏 (東京文化財研究所 副センター長)

### 3/8日 ワークショップ 「琉球古刺繡をやってみよう」

時間 14:00～17:00 場所 博物館実習室 定員 15名  
講師 寺田貴子氏 (活水女子大学 教授) ※子どもも大人も歓迎!  
小学生以下は保護者同伴



# 美術館

## 「作家と現在」関連イベント

### 1/17金 ギャラリートーク

時間 18:00～19:30 場所 美術館企画ギャラリー  
講師 石川竜一氏 (出品作家) ※当日有効の美術館企画ギャラリーの観覧券が必要

### 1/25土 アーティストリレートーク

時間 14:00～16:00 場所 美術館企画ギャラリー  
講師 伊波リンド氏、根間智子氏、ミヤギフトシ氏 (出品作家)  
※当日有効の美術館企画ギャラリーの観覧券が必要

## コレクション展 関連催事

[各回] 時間 14:00～15:30 (開場13:30) 定員 50名

※当日有効の美術館コレクションギャラリーの観覧券が必要

### 1/11土 「真喜志勉 ドローイング展」 学芸員講座 + キュレータートーク

講師 大城さゆり 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー1

### 2/29土 美術講座「大城精徳の仕事」について語る

講師 星雅彦氏 (美術評論家、詩人) 進行: 豊見山愛  
宮城篤正氏 (元沖縄県立芸術大学学長・画家)  
場所 コレクションギャラリー2

### 3/1日 「石田尚志展」アーティストトーク

講師 石田尚志氏 場所 美術館ホワイエ

## 美術館 学芸員講座

時間 14:00～15:30 (開場13:30)

講師 亀海史明 場所 美術館講座室

## 美術館ミュージアムツアー

時間 10:30～12:00 (10:25までに美術館ホワイエ集合)  
定員 12名 (事前申込制) 講師 大城さゆり (展示公開担当)

※1ヶ月前から、電話か直接来館(総合案内)にて受付

※当日有効の美術館コレクションギャラリーの観覧券が必要

## 『OKINAWA』アートワークショップ2019

### 2/15土 琉球漆器 沈金を楽しもう

時間 9:30～12:30 場所 県民アトリエ、こどもアトリエ  
定員 20名 参加費 3,000円 講師 漆実験工房のみなさん  
※1ヶ月前から、電話か直接来館(総合案内)にて受付

# Museum 博物館

## 「手わざ—琉球王国の文化」関連催事 無料

### 3/15日 文化講座「琉球の仏教美術」

時間 14:00~16:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名  
講師 長谷 洋一氏 (関西大学 教授)

## 博物館 学芸員講座 無料

[各回] 時間 14:00~16:00 場所 博物館講座室 定員 80名

### 2/8土 博物館における民俗研究について

講師 大湾 ゆかり

### 3/7土 琉球漆器の螺鈿技法のうつりかわり

講師 伊禮 拓郎

## 「サンゴ礁ウィーク2020」関連催事

### 2/29土 サンサンGOGO!

時間 10:00~16:00

※詳細はホームページでお知らせします

## 博物館常設展 展示解説会 無料

[各回] 時間 14:00~15:00 場所 博物館 常設展示室

※当日有効の常設展観覧券が必要

1/9木 民俗

2/13木 民俗

3/12木 人類

講師 大湾 ゆかり

講師 大川 剛

講師 澤浦 亮平

## バックヤードツアー 無料

[各回] 時間 14:00~15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名

※当日先着順 (13:00より総合案内にて受付)

1/25土 美術工芸

2/22土 民俗

3/21土 教育普及

講師 伊禮 拓郎

講師 阿利 よし乃

講師 大川 剛

## ふれあい体験室ワークショップ [1月~3月]

### 毎週土曜 開催 ふれたい博士のびんがたデザイン

時間 1回目 10:00 2回目 10:30 3回目 11:00 4回目 11:30 ※所要時間30分

場所 ふれあい体験室前 参加費 400円

定員 当日先着40名 (各回10名) ※当日9:00よりふれあい体験室にて 全ての回を受付



[開館時間] 9:00~18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)

※入館は閉館30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)

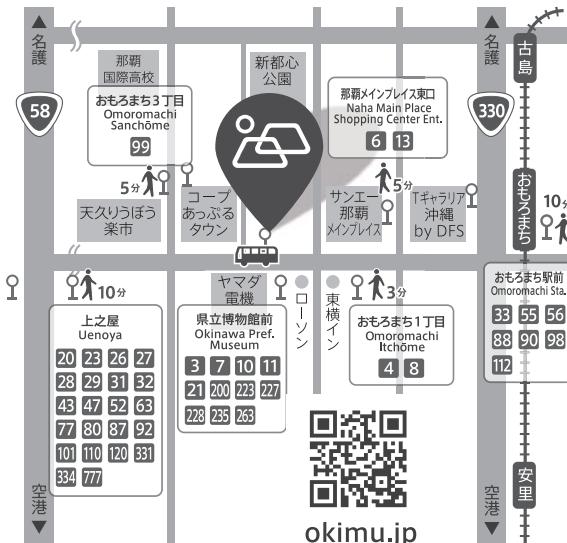
メンテナンス休館 (2020年2月17日~21日)

※休館日は変更することがあります。

当館ホームページをご覧ください。

[ホームページ] <https://okimu.jp>

おきみゅーとお友達になろう!!



アクセス

駐車場は台数が限られていますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【沖縄都市モノレール】ゆいレール おもろまち駅下車 (徒歩10分)

編集後記 「令和元年」に慣れてきたところですが、早いものでもう「令和2年」の幕開けです。この編集後記を書いている12月中旬は、冬とは思えない暖かさで、年末があまり感じられませんが、この「おきみゅー通信 vol.14」が皆さまのお手元に届く頃には、冬らしくなっているのでしょうか。

さて、令和2年の1月から3月のおきみゅーは、現代作家の展覧会「作家と現在」や、琉球王国時代の美を探る「手わざ展」、絵本『スイミー』の作家であるレオ・レオーニの展覧会があったりと、バリエーションに富んだ展覧会が行われます。乞うご期待ください! (おき博美)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゅー通信 vol.14 冬号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2019年12月27日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者  
一般財団法人 沖縄美ら島財団